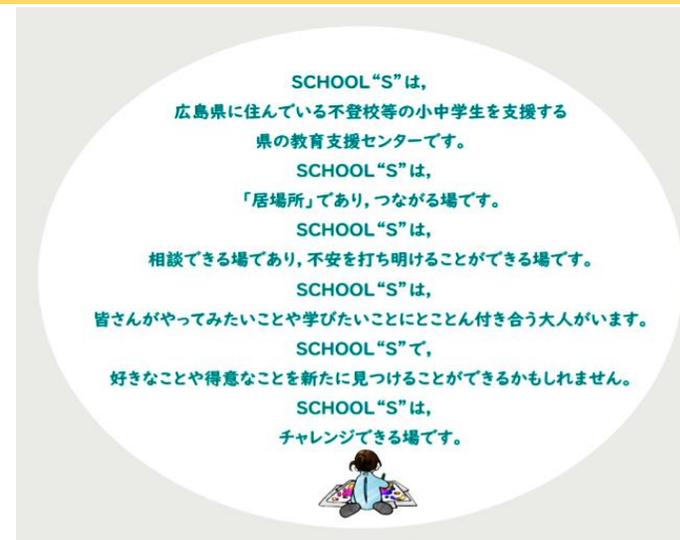


不登校や不登校傾向の児童生徒、とりわけ学校等と十分につながりがもてていない児童生徒に対し、対面とオンラインの両面による社会とつながる場を提供し、個々の状況に応じた学びを進めることを通して、社会的自立に向けた支援を実施（令和4年4月～）。



【SCHOOL“S”体験・見学・入室に関する お問合せ】  
不登校支援センター 082-228-3500

【不登校等のご相談】  
心のふれあい相談室 082-428-7110



(参考)

- ・利用登録者数（令和5年度）…小148人 中122人
- ・一日の平均利用者数（令和6年3月1日～22日）…来室（小19.8人 中12.6人）オンライン（小11.3人 中11.8人）

# SCHOOL“S”の取組

02

県教育支援センター（SCHOOL“S”）による支援

経営目標

個々の児童生徒の社会的自立に向けた成長を支援する。

育成したい力

○ 相談できる力 ○ 自分の強みを知り、生かす力

心のふれあい相談室（県立教育センター内）

相談

高校生

指導員・心理療法士  
16:30 電話/来室/オンライン

SCHOOL“S”

◆教育支援業務（県の教育支援センター）  
愛称：SCHOOL“S”（スクールエス）  
指導主事・相談指導員・学生ボランティア

児童生徒（Students）が  
自分で選んだ（Select）  
秘密基地（Secret）のようにワクワクする  
特別な（Special）  
場所（Space）

児童生徒自身が利用方法・内容を選択し自己決定する  
（時間割（MY時間割）の作成）

MY時間割で活用する学習方法の例

来室による利用（SCHOOL“S”）



火～金 9:15～14:00  
\*（金）pmはプロジェクトタイム

- ・教科書や問題集による各教科等の学習
- ・ソーシャルスキルトレーニング
- ・体験的な活動（農作業・調理・スポーツなど）
- ・探究的な活動
- ・児童生徒が企画する活動 など

※来室時にオンラインの利用可能

オンラインによる利用

（自宅・市町教育支援センター等から）

火～金 9:15～14:00

- ・指導主事等による同時方向型プログラム配信
- ・ソーシャルトレーニング
- ・他自治体等との交流プログラム
- ・児童生徒が企画する活動 など

※来室による利用も可能

併用利用可

個々の状況に応じた伴走支援

個別のサポート計画の作成

対面参加

オンライン参加

「あつまれ学びプログラム」や「オンライン学びプログラム・オンラインクラブ活動」

※SCHOOL“S”利用者に限らず、県内すべての小中学生の参加が可能

社会とのつながり  
学習機会の確保

子供たちの学びの**選択肢の一つ**としての機能を強化

◎学びの場としての環境づくり ◎オンラインでの利用ができる機器を整備

利用状況等の共有  
拡大関係者会議等の連携

オンラインによる利用

オンラインによる利用

家庭

小学生  
中学生

多様な選択肢から選ぶ

通室

通学

学校

通常の教室

SSR  
スペシャル  
サポートルーム

連携

民間団体  
（フリースクール等）

アウトリーチ  
※特に必要な場合

通室

連携・協働

オンラインによる利用

各市町  
教育支援センター

連携

大学等専門機関  
NPO法人等

連携・協働



個別のニーズに応じた学習に取り組むことが可能（来所・オンライン）

※学校の別室（SSR）や市町の教育支援センター、フリースクール、自宅からの利用も実現

# SCHOOL“S”の取組

## 02 県教育支援センター（SCHOOL“S”）による支援

おおよその流れ

1 保護者や学校からの問い合わせ・相談

2 体験入室（来室 or オンライン）

3 学校を通して申込書を提出

児童生徒自身が利用方法・内容を選択し自己決定する  
（時間割（MY時間割）の作成）

MY時間割で活用する学習方法の例

来室による利用（SCHOOL“S”）



火～金 9:15～14:00  
\*（金）pmはプロジェクトタイム

- ・教科書や問題集による各教科等の学習
- ・ソーシャルスキルトレーニング
- ・体験的な活動（農作業・調理・スポーツなど）
- ・探究的な活動
- ・児童生徒が企画する活動 など

※来室時にオンラインの利用可能

オンラインによる利用  
（自宅・市町教育支援センター等から）



火～金 9:15～14:00

- ・指導主事等による同時方向型プログラム配信
- ・ソーシャルトレーニング
- ・他自治体等との交流プログラム
- ・児童生徒が企画する活動 など

※来室による利用も可能

併用利用可

個々の状況に応じた伴走支援

個別のサポート計画の作成

「集まれ学びプログラム」

「オンライン学びプログラム・オンラインクラブ活動」

※ SCHOOL“S”利用者に限らず、県内の小中学生の参加が可能

オンライン社会見学 八天堂

折り切りくLOVE

クイズ!推しえて!!

君もロードスター博士になれるか!?

つながろう with 海外2023

県内外の専門機関が提供するプログラムにも参加可能

## MY 時間割 ※ 併用利用の場合の例

利用方法	来室	オンライン	オンライン	来室
曜日	火	水	木	金
	9:15	おはようタイム	おはようタイム	おはようタイム
1	9:30 10:15	Cタイム	SCHOOL“S” チャンネル	manabiタイム
2	10:30 11:15	個別学習等 （教科書・問題集）	SCHOOL“S” チャンネル	学プロ・クラブ
	12:45	こんにちはタイム	こんにちはタイム	こんにちはタイム
3	13:00 13:45	個別学習等 （スポーツ）	学プロ・クラブ	SCHOOL“S” チャンネル
	14:00	じゃーねータイム	じゃーねータイム	じゃーねータイム

選択・自己決定

コンテンツ名	内容
おはようタイム	出席状況の確認や健康観察及び1日の過ごし方などを確認する。
こんにちはタイム	出席状況の確認や健康観察及び午前中で活動を終了する児童生徒の振り返りを行う。
じゃーねータイム	1日の活動の簡単な振り返りや今後の予定等を確認する。
個別学習等	児童生徒自身が自分で考えた学習や活動（読書、スポーツなど）を行う。
Cタイム (communication)	1週間の予定などを確認し、【MY時間割】を作成する。
SST (social skill Training)	ソーシャルスキルトレーニング。 対人関係や集団生活を営みやすくなるための技能（スキル）を養う。
manabi タイム	児童生徒の計画をもとに、個別もしくは集団で学習する。
学プロ・クラブ	県教育委員会が実施するオンライン学びプログラム・オンラインクラブ活動。興味・関心を同じくする小集団で楽しみながら学ぶ場や交流する場を提供する。
SCHOOL“S” チャンネル	リアルタイムオンライン配信プログラム（スタッフはMC等を務めます） ※ 全てのコマで配信
探究タイム	農業体験や調理、スポーツなど興味・関心に応じ、探究的な活動を行う。

個人ごとに異なる時間割を作成

スクール“S”内の様子をライブ配信

→オンライン利用者の来所利用のハードルを下げる

## ◆オンラインでの利用

- ・ 2人1組で担当
- ・ 1コマずつ担当を交代



来室して活動している様子を  
ライブ配信  
(例) さつまいも苗植え



## 日常的な活動の様子

## ◆来室での利用

- ・ 学習室やプレイルームなどでの学習活動を支援



スクール“S”利用児童生徒への指導を体験できる教員研修を実施（実習形式）

→ 各学校の指導改善を図る

学びの場としての  
環境づくり

After



ロビー



トイレ



プレイルーム



学習室



屋外階段

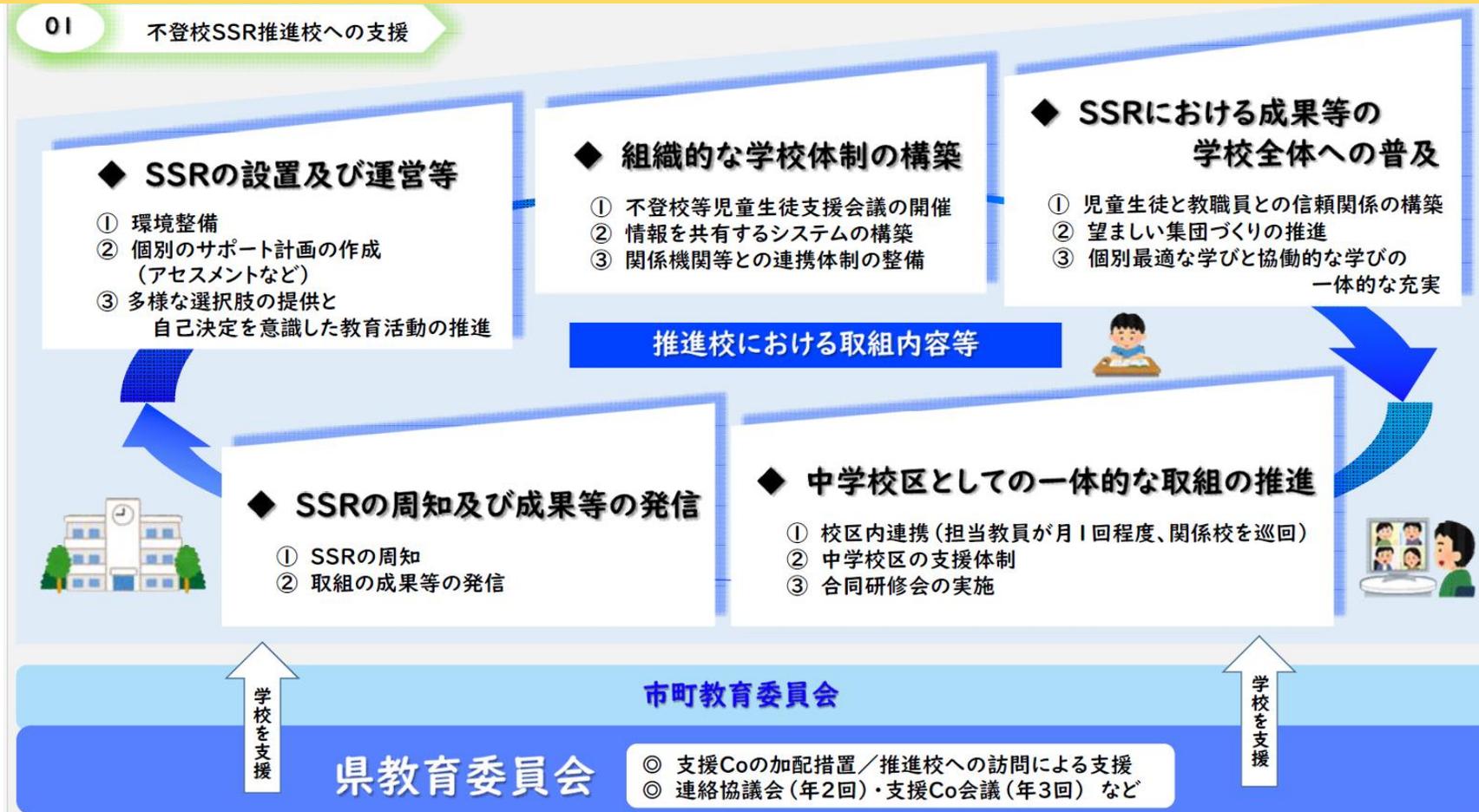
- ・学校の施設そのものにハードルを感じる児童生徒でも安心して過ごせるよう、“学校らしく見えない”室内環境を整備
- ・個別の学習、協働での学習の両立が可能なレイアウト

## 児童生徒の感想

- ・探究タイムは、とても楽しかったので、来週もこれをしたいです！
- ・意見が共有できる人や場があつていいなと思います。
- ・（土プロジェクトの器づくりでは）僕がやり方を説明して、みんなが楽しんで作ってくれている姿がうれしかった。人に伝える経験が増えて勉強になった。
- ・自己紹介で自分の名前を話せたのがうれしかったし、カードゲームでみんなと関わられたのがうれしかった。今度は、絵をかいたり、料理をしたりしたいです。
- ・図工で素敵な絵をかいた。最高！！！！！！！！！！
- ・自分たちで竹を切って、箸置きとかを作って楽しかった。
- ・（オンラインコンテンツで）室町時代や琉球のことについて学びました。日本と明や東南アジアとの経由地で利益を上げていたことを知りました。

# 不登校SSR推進校 = (県教育委員会指定) 校内教育支援センターを設置校の取組

不登校SSR推進校 = (県教育委員会指定) 校内教育支援センターを設置校 (令和元年度～) ※R6 42校



SSRにおける支援の考え方や支援方法の学校全体への普及

→ 児童生徒と教職員の信頼関係の構築や望ましい集団づくりを推進

→ 不登校の未然防止につなげる

## ◎ 安心・安全な居場所

### 📌 ポイント

- ◆ 学校らしく見えない教室を目指しましょう!
- ◆ 校内で入室しやすい場所を選定し、動線を確保しましょう!
- ◆ 個別の学習、協働での学習の両立が可能なレイアウトを工夫しましょう!

◎ 伴走者がいる  
(担当者)



## SSR

【育てたい力】

- ★ 相談する力
- ★ 自分の強みを  
知り、生かす力

SSR(スペシャルサポートルーム)を、  
どんな場所にしていこう  
としているのでしょうか。



### 📌 ポイント

- ◆ 適切なアセスメントを実施しましょう!
- ◆ アセスメントを踏まえて、身に付けさせたい目標を設定しましょう!
- ◆ 児童生徒・保護者との面談等によって共通理解を図りましょう!

## ◎ 個々の状況に応じて成長できる場所

学習支援  
(個別・集団)

◎ 時間割を自分で決め、  
変更したい場合は、相談できる。

### 📌 ポイント

- ◆ 児童生徒の興味・関心を生かした学び
- ◆ 児童生徒が相互に学び合う場の設定
- ◆ 振り返りと教職員からの声掛け

◎ 通常の教室への復帰を前提とはしない

## ★利用した児童生徒, その保護者及び担当教員の声



児童生徒

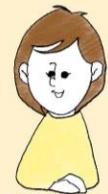
- 少人数で安心できる場所があると学校に来ることができる。
- 静かに自分のペースで学習ができる。教室はざわざわしている。
- SSRがあったので、(教室でしんどくなった時も)家に帰らずにSSRに行くという選択肢が増えたことが良かった。
- 体がしんどい時、みんなと同じペースで勉強が、進められない時にSSRを使って自分のペースで勉強し、また教室に戻れるのが良かった。
- 授業の途中で教室から出たり、教室に入ったりするのは特に気にならないようになった。
- SSRでは、周りの人に助けてくれる友達ができて笑顔になれる。友達が困ったときに助けてくれる。
- 人の気持ちを考えることができるようになった。

- 登校しやすい雰囲気(子供が)行きやすかった。
- 切り替えができる場所があって良かった。安心して通うことができた。
- SSR通信でSSRのことや子供のことがよくわかった。
- 自分がしんどい時に自分で気づけて、先生にも伝えることができるようになったことが良かった。
- 進路が決まって良かった。不登校になって難しいと思っていた。
- 保護者の会などで相談できてよかった。



担当教員

- 教職員も全ての児童が使うことができる部屋としてSSRをとらえている。週1回の支援会議(全教職員での不登校等児童に係る会議)の成果であると考えている。



保護者

## ★指定校における不登校児童生徒数(令和2年度)

広島県全体の不登校児童生徒数が増加する中で、指定校11校中9校で、前年度以下という結果